

学校教育ビジョン 【教育目標】「今も未来も 幸せになるために学ぶ 山中っ子の育成」 (キーワード) みんなが楽しい、みんなが成長できる学校をみんなでつくる  
 <目指す学校像> ○安全で安心して、楽しく学ぶことができる学校 ○子どもを主語に、教職員が協働して子どもの成長を支える学校 ○保護者・地域とともに創る開かれた学校  
 <目指す児童像> ○なりたい姿に向かってチャレンジする子 ○目標に向かって、自己調整して学べる子 ○他者と話し合い、問題を解決したり新しい考えを生み出したりする子 ○自分や友達の良さや成長を見つけたり、応援したりする子  
 <目指す教師像> ○愛情をもって指導し、子ども一人一人のがんばりや成長を認める教師 ○教育に対する使命感をもち、指導力の向上に努める教師 ○明るい笑顔で、コミュニケーションを大切にしている教師

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	子どもが主体となる授業づくりのための基礎基本の力の定着と授業改善を進める。	国語・算数の基礎基本の力を一人ひとりに確実に身に付けるために朝学習の時間を活用したり、つけたい力を身につけるための単元構想に取り組む。	教務主任	基礎基本の力の定着は個人差が大きい。そのため当該学年の学習内容の習熟に時間がかかっている。	【成果指標】 国語・算数の単元末テストにおいて、児童が、学年として必要な力を身に付けている。	国語・算数科の単元末テスト(知識技能)で80点以上の児童が A 85%以上いる B 75%以上いる C 65%以上いる D 65%未満である	1・2学期末 単元末テスト(国・算)			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	児童が互いに尊重し、協力し合えるような温かい人間関係の中で、前向きに自分から行動できる活動の充実を図り、自己指導能力を育てる。	学級内で自主的・自発的な活動につながる機会を設定する。また、児童会活動などでは、自分で考えて、主体的に行動できるような場を設定する。道徳の授業で、日々の生活をふり返り、自己指導能力の育成につなげる。	生徒指導 主事	昨年度は、児童アンケートで「学校に行くのが楽しい」と肯定的に答えた児童が85%だった。1学期よりも肯定的な回答が増えた。一方で、クラス間で差があり、学校全体として肯定的な回答が増えたとはいえない。	【成果指標】 児童が「学校に行くのが楽しい」と感じている。	「学校に行くのが楽しい」と回答した児童の割合が、 A 90%以上である 且つ 全クラス80%以上 B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1・2学期末 児童アンケート			
③キャリア教育・進路指導	目標を持って、様々な行事や活動に参加し、自立の基盤となる資質・能力・態度を育成する。	キャリアパスポートを活用し、児童一人ひとりが目標を設定して行事や学習活動に取り組み、振り返る。	キャリア教育 担当	振り返りを通して自己の成長を実感できる機会が少なかった。行事や学習活動で目標をたて、活動後や学期末などに振り返りを行う必要がある。	【成果指標】 目標に向かって一生懸命に取り組めたと感じている。	目標に向かって一生懸命取り組んだと感じている児童が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1・2学期末 児童アンケート			
④保健管理	睡眠の大切さについて学び、自らの健康的な生活について考え実践する。	担任の日常的な声かけや指導に加え、養護教諭が指導を行う。また、委員会の企画で意識を高めるとともに、保護者への啓発も行う。	保健主事 養護教諭	過度なメディア利用等で睡眠時間が短くなり、生活リズムが乱れている児童がいる。	【成果指標】 児童が睡眠の大切さを理解し、実践している。	「睡眠時間を十分にとっている」と答えた児童の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1・2学期末 児童アンケート			
⑤安全指導	学校安全計画に基づき、学校安全に関わる取組を実施し児童・教職員の危機対応力の向上を図る。	火災や地震等を想定した避難訓練や防犯教室を計画的に実施し、事前・事後の指導の徹底を図っていく。また、職員に不審者対応等の危機管理マニュアルの内容を周知・徹底していく。	教頭	計画的に避難訓練や研修を実施できたが、地震等の突発的な事態に備え、教職員、児童ともに、様々な場面での危機対応能力を高めていく必要がある。また、職員の危機管理マニュアルの理解が深まっていない。	【成果指標】 危機対応訓練を3回以上実施することができている。	危機対応能力が高まる訓練や研修を A 5回以上実施 B 3回実施 C 2回実施 D 2回未満実施	実施回数			
⑥特別支援教育	支援の必要な児童への適切な対応を図る。	特別支援コーディネーターを中心に、現状に応じて組織的な支援体制を計画・実施する。また専門相談員や特別支援教育地域アドバイザーを積極的に活用し、教職員の校内研修の機会を設け、支援や指導に生かしていく。	特別支援 教育 コーディネーター	支援を要する児童が多数おり、随時支援体制を見直してきた。適切な支援について、支援方法を検討していく。	【努力指標】 校内支援委員会で検討し、組織立って適切な指導ができている。	支援を要する児童に適切な指導に努めている割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末 教職員アンケート			
⑦組織運営・業務改善	業務の精選、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。	時間外勤務時間が45時間を超えない働き方の意識を高め、業務改善につながる取組を全教職員で考え、試行し改善していく。また、マイ定時退校日と最終退校時刻を設定し、実施する。	教頭	業務の効率化等により、業務改善は進んでいる。しかし、毎月の時間外勤務が45時間を超える教職員はまだ数名いる。自らの働き方について見直すとともに、組織としてさらに業務改善を進めていく必要がある。	【努力指標】 教職員が、効率的、効果的に業務を遂行している。	時間外労働時間が45時間以下となっている、また、なるように努力していると答えた教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末 教職員アンケート			
⑧研修	校内研修に積極的に取り組み、児童が自分で考え、表現する授業づくりに努める。	国語の研究1年目として要請訪問や校内研修を行い、共通実践を通して、授業改善を行っていく。	研究主任	これまでは研究が特別活動だったため、国語の授業が単元構想シートなどを使って計画的に行われていなかった。	【成果指標】 教職員が、要請訪問や校内研修などを通して授業改善に努めている。	国語の授業(説明文)において単元構想シートを使って計画的に行えたと答えた割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末 教職員アンケート			
⑨保護者・地域との連携	保護者や地域の方々とともに課題解決に取り組む、児童の成長を喜ぶことができる連携を図る。	コミュニティスクール(CS)・コーディネーターと連携し、地域の方々と協力体制を整えるとともに、ホームページ(HP)やコドモン等のICTを活用し積極的に学校の様子を発信する。	教頭 情報担当	便り等で学校の様子を伝えているが、保護者や地域との連携・情報共有はまだ十分とは言えない。今後も、情報発信のための取組が求められる。またCSの3年目であり、さらなる体制づくりが求められる。	【満足度指標】 便りやHP等のメディアを活用し、保護者が児童の学校生活の様子を知ることができている。	学校便りやHP等で、学校の様子がよくわかると答えた保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1・2学期末 保護者アンケート			
⑩教育環境整備	児童一人ひとりが安全安心で、主体的な学びへとつなげられる教育環境の整備に努める。	安全点検や日常の教育活動を通して、児童に合った合理的配慮の視点から学習環境を整えていく。	教頭 事務	これまでも修繕等の教育環境整備に努めてきている。今後も続けて、児童一人ひとりの主体的な学びにつながるような、合理的配慮に基づいた教育環境の整備が求められる。	【努力指標】 児童への合理的配慮の視点から教育環境を整備することができている。	児童への合理的配慮の視点から、児童の学びに応じた教育環境を整備することができたと答える教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末 教職員アンケート			

学校関係者評価